

(平成 21)2009 年度事業計画書

2009 年 4 月 1 日～2010 年 3 月 31 日

ウッドマイルズ研究会

1. 今年度事業の基本的方針

環境指標の「見える化」(低炭素社会作りの行動計画)や国産材を利用した住宅の推進(長期優良住宅推進法)が政府の対策の柱になる中で、研究会が6年前提起した『木材の「人と地球に優しい」という属性を、消費者が自信を持って選択するための手助けとして、また、我が国の大量消費社会の矛盾を示す尺度として、木材の産地から消費地までの距離(ウッドマイルズ)についての様々な情報を提供する(設立趣意書)』という理念がますます輝きを増している。

追い風を生かし、ウッドマイルズレポートや認定技術者の講習などのツールを通じて、研究会の活動の幅をを拡大するとともに、関係団体との連携を広め「木材に関する環境指標の普及および統合」という活動目標を実現するため、以下の活動を行う。

・関連指標及びツールの開発事業

関連指標算出マニュアル及び算出プログラムは、現状の維持管理に努める。次年度以降、林野庁の「見える化」プロジェクトの動向を踏まえて、必要に応じて改定等を行う。

・普及及びネットワークの形成事業

「木材に関する環境指標の普及および統合」活動(地球環境基金助成事業 H20～22 年度)によるフォーラム(6～7月:東京)、およびセミナー(9月～10月:京都)を開催する。ウッドマイルズ算出講習会は昨年同様、希望に応じて随時開催する。パンフレット 2009 年度版の発行、及び、ホームページ、ニュースレターによる情報発信の充実にも努める。

・情報収集研究事業

「木材に関する環境指標の普及および統合」活動(地球環境基金助成事業 H20～22 年度)によるケーススタディー調査を実施する。また、伐採木材の利用に係る炭素収支モデルの開発(森林総合研究所共同研究 H18～H22 年度)を、引き続き行う。

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
関連指標及びツールの開発事業	マニュアル・プログラムの維持管理	4/1～3/31	事務局	2人	会員他多数	0
普及及びネットワークの形成事業	ウッドマイルズフォーラム 2009 開催	6/27	東京都(浜松町)	12人	参加者 60名(見込)	1,000
	ウッドマイルズセミナー 2009 開催	9/15、9/16(仮予定)	京都府	15人	参加者 60名(見込)	850
	算出講習会	4/1～3/31	事務局ほか	2人	認定取得者 40名(見込)	200
情報収集研究事業	「木材に関する環境指標の普及及び統合」ケーススタディー調査	4/1～3/31	各調査地ほか	11人	会員他多数	650
	伐採木材の利用に係る炭素収支モデルの開発	4/1～3/5	事務局他	4人	研究関係者多数	2,000

2. 各事業の計画概要

「木材に関する環境指標の普及および統合」活動（地球環境基金助成事業 H20～22 年度）の概要

（活動主旨）

地球温暖化防止を踏まえ、重要となる森林～木材～住宅という木材の適正な循環を作り出すことに寄与するため、ウッドマイルズを始めとする多様な木材の環境指標の連携や統合の重要性を訴えると共に、実用性の高い総合的な指標づくりに寄与することを目的として、3 年の活動を行う。

（具体的な活動）

H20 年度 / フォーラム・セミナー開催を通じた情報発信

**H21 年度(今年度) / フォーラム・セミナー開催を通じた情報発信 + モデル地区におけるケーススタディー調査
および他の環境指標を提唱するグループとの情報交換・連携手法の模索**

H22 年度 / 調査結果を踏まえた提言事例集の発信 + イベント開催による普及

（今年度活動概要）

フォーラムの開催（東京）

ウッドマイルズ研究会の今後も踏まえ、森林～木材～住宅という循環を作り出す上で、関係者が各々の立場でどのようなランドデザインを持つべきかについて、森林、木材、住宅、関係 3 者による講演を行うと共に、具体的なケーススタディー候補地の実践活動報告を行う。

セミナーの開催（京都）

京都セミナーの位置付け（各自治体の情報交換の場）を踏襲し、森林木材だけではなく建築行政も含めた自治体からのアプローチというテーマで、より実務的な情報発信および意見交換を行う。

ケーススタディー調査

アプローチの異なる 5 地区の実践事例について実施し、報告をまとめる。

他の環境指標を提唱するグループとの情報交換・連携手法の模索

森林認証、フェアウッド、合法木材、住宅の環境指標（省エネ、長寿命など）等を推奨・主導する団体との情報交換をはかり、連携の手法（ウェブの立上げなど）を関係者と共に検討する。

伐採木材の利用に係る炭素収支モデルの開発（森林総合研究所共同研究 H18～22 年度）

（研究主旨）

2013 年以降の森林吸収源評価は伐採木材製品を含むフルカーボンアカウンティングとする国際的流れのある中、わが国が利用する国産・輸入木材の流通・加工エネルギーおよび製品炭素貯蔵に係る炭素収支モデルを開発する。（ウッドマイルズ研究会は流通エネルギーの解析担当）

（H21 年度研究予定）

自動車の積載量別の検討、および 7 品目（素材・製材・合板・チップ・パルプ・紙・古紙）の国内輸送炭素排出量の年度別推計を行う。

(平成21)2009年度事業会計収支予算書

2009年4月1日から2010年3月31日

ウッドマイルズ研究会

科目・摘要	金額		
収入の部			
1 会費・入会金収入			
(1) 年会費			
・正会員個人 5,000円×100名=500,000	500,000		
・正会員法人 30,000円×30社 = 900,000	900,000		
・賛助会員個人 3,000円×20名=60,000	60,000		
・賛助会員法人 30,000×0=0	0		
		1,460,000	
2 事業収入			
(1) 関連指標及びツールの開発事業			
1) 建築物ウッドマイルズ関連指標算出マニュアル・プログラムの維持管理	0		
(2) 普及及びネットワークの形成事業			
1) フォーラム、セミナー開催			
・ウッドマイルズフォーラム2008(東京)	100,000		
・ウッドマイルズセミナー2008(京都)	100,000		
・算出講習会(随時)	200,000		
2) 情報発信			
・ホームページ情報更新、ニュースレター配信	0		
・2008年度研究会パンフレット・レポートサンプル編集発行	0		
(3) 情報収集研究事業			
1) 「木材に関する環境指標の普及及び統合」ケーススタディー調査	0		
2) 伐採木材の利用に係る炭素収支モデルの開発(森林総合研究所共同研究)	2,000,000		
		2,400,000	
3 補助金・助成金収入			
(1) 環境再生保全機構(地球環境基金)			
・「木材に関する環境指標の普及および統合」活動助成金(フォーラム・セミナー・WCTE)	1,800,000		
		1,800,000	
4 その他			
(1) 利息・雑収入	0		
		0	
当期収入合計(A)		5,660,000	
前期繰越収支差額		147,079	
収入合計(B)			5,807,079
支出の部			
1 事業費			
(1) 関連指標及びツールの開発事業			
1) 建築物ウッドマイルズ関連指標算出マニュアルVer.2008発行	0		
(2) 普及及びネットワークの形成事業			
1) フォーラム、セミナー開催			
・ウッドマイルズフォーラム2008(東京)	1,000,000		
・ウッドマイルズセミナー2008(京都)	850,000		
・算出講習会(随時)	200,000		
2) 情報発信			
・ホームページ情報更新、ニュースレター配信、パンフレット類修正等	0		
(3) 情報収集研究事業			
1) 「木材に関する環境指標の普及及び統合」ケーススタディー調査	650,000		
2) 伐採木材の利用に係る炭素収支モデルの開発(森林総合研究所共同研究)	2,000,000		
		4,700,000	
2 管理費			
(1) 事務局委託費(ホームページ・ニュースレター・運営管理・事務所使用料等一式)	1,000,000		
(2) 借損料(総会会場)	50,000		
(2) 旅費	5,000		
(3) 通信費	40,000		
(4) 支払手数料	5,000		
(5) 消耗品費	5,000		
		1,105,000	
当期支出合計(C)			5,805,000
当期収支差額(A)-(C)			145,000
次期繰越収支差額(B)-(C)			2,079

(1) 会費収入状況によって変動する。年度末精算。(目標は10万円/月×12=120万円)